

2019 WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 9 (7/26)

大会3日目。特にサンダーstormを予想したスケジュールは組まれていなかったが、日本代表チームの第一陣が会場に到着した6:10頃には、遠くに稲光が見える状態でした。その後、朝のトレーニングクルーが続々と水上に出ていきましたが、7:40頃にOCからスケジュールを2時間30分遅らせる旨のアナウンスがあり、日本代表チームも一度ホテルに引き上げました。

天気予報がかなり当たるようで、11:30再開のときには雨は上がっており、強い日差しが照り付け非常に蒸し暑い気候となっていました。

その後レースは変更されたスケジュール通りに行われ、日本代表チームからは5クルーがそれぞれのステー



出艇桟橋で出艇を止められたクルーが続々と戻ってくる様子。

BM1x Quarterfinal

出漕クルーが最も多い種目のため、唯一Quarterfinalが設けられている種目。

スタートから各国が主導権争いをする中、日本は4~5番手につける。500mの通過はエジプト、ラトビアとほぼ並ぶように4位で通過。ドイツとオーストリアが抜け出し始め、日本とエジプトがセミファイナルA/B通過ラインの3位争いを繰り広げはじめた。しばらく一進一退の状況が続いたが、800m付近から日本がじりじりと抜けだし1000mでは3位に上がり4位エジプトには1.46秒差をつけた。

第3クォーター、日本がトップスピードを維持し続け、エジプトを更に突き放し始める。エジプトも追いつがってきたが、日本の攻めの姿勢が勝り1500mの通過では4位エジプトとの差を5.18秒差に広げた。ラストクォーターは攻め続けた結果からか多少ペースは落ちたが、必死の力漕でエジプトを突き放し3位でゴール。見事セミファイナルA/B進出を決めた。また記録も6分58秒18と7分切りを達成した。



勝負のQuarterfinalに向け出艇するBM1x櫻間選手
(NTT東日本)

1800m付近を力漕するBM1x櫻間選手(NTT東日本)



ゴール前、追いつがるエジプトを振り切るBM1x櫻間選手(NTT東日本)

BM2x敗者復活

スタートからカナダが飛び出し、ノルウェー、アメリカが続き、少し離れて日本がついていく展開。3位までがセミファイナルA/Bに進出できるので、何とかノルウェー、アメリカに食らいつきたいところだが第2クォーターに入ってもじりじり離され続け、3位アメリカと5秒差で1000mを通過。第3クォーターでアメリカとの差の開きが鈍り始めラストクォーターでの巻き返しに期待がかかる。そしてラストクォーター。必死に追上げる日本だが差は縮まらず4位のままでゴール。この種目にはファイナルCがないため、このレースが最後のレースになった。



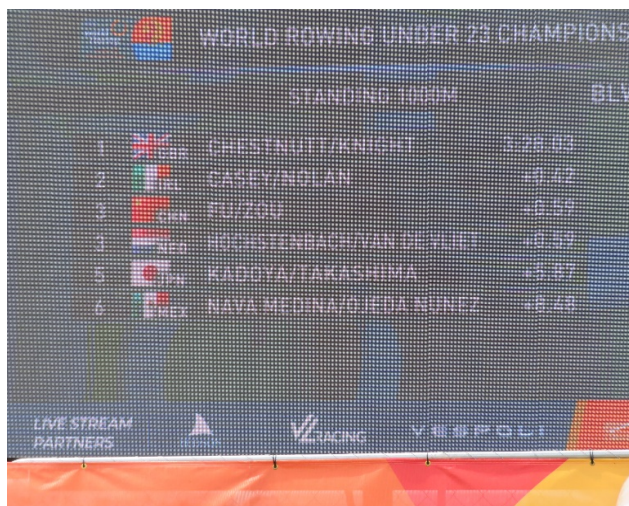
必死に先行するクルーを追うBM2xクルー。左から遠山選手(日本体育大学)、木村選手(日本大学)



懸命のラストスパートを入れるBM2xクルー。。左から遠山選手(日本体育大学)、木村選手(日本大学)

BLW2x敗者復活

2位までがファイナルAに進出できるレース。スタートから各国がトップギアで飛ばしてくる。日本はあえに出ることはできないものの、きちんとレースの流れについて行っている。500mの通過は2位オランダと2.13秒差の5位で通過。ここから差の広がりがなくなり追撃の体勢に入りつつあった750m付近でミスオール。レースの流れから遅れをとった。必死のリカバリーでレースに食らいつくが、1000mの通過は2位になったアイルランドと5.45秒差の5位。後半も必死に立て直しレースに食らいつき、ラストクォーターでも追撃を図るが届かず5位でファイナルBに回るようになった。



STAND	TEAM	TIME
1	GBR CHESTNUT/KNIGHT	8:28.03
2	NLD CASEY/NOBMAN	8:32
3	ITA FU/GOV	8:39
4	HUN HOSZTARBAK/IAN DE VRIES	8:47
5	JPN KADOYAMA/TAKASHIMA	8:52
6	ESP NAVAMONTAN/ETA NUNEZ	8:58



ゴール前、必死の追い上げを見せるBLW2xクルー。写真左からS高島選手(明治大学)とB角谷選手(立教大学)

BW2- セミファイナルA/B

オープン女子スウィープの扉を開くBW2-クルーに期待がかかる。スタートからギリシャ、ニュージーランドが飛び出し、アメリカ、オーストラリア、ドイツが続き日本は最下位で500mを通過。第2クォーターに入り、日本はドイツをかわし、1位ギリシャと9.79秒差、3位アメリカとは7.21秒差の5位で1000mを通過。第3クォーターでも日本は必死に追撃を図るが、差は縮まらない。ラストクォーターでも状況を大きく変えることはできず5位でゴールし、ファイナルBに進むことになったが、ローイング強豪国が揃う中で堂々とした戦いぶりをみせてくれた。



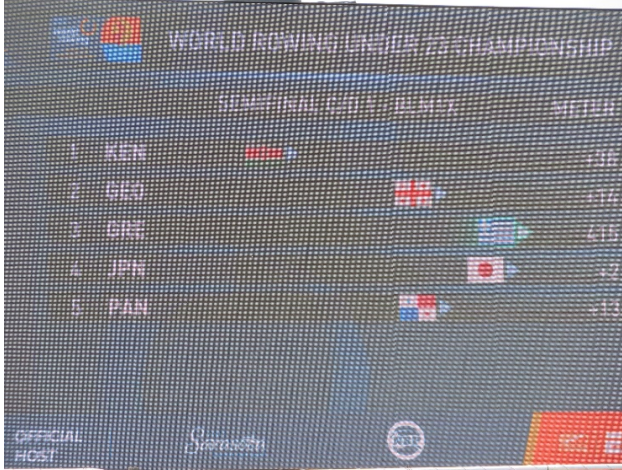
写真左から、2位アメリカ、6位ドイツ、5位日本。



死力を尽くして最後までファイナルAを目指し続けた、BW2-クルー。写真左からS西田選手(明治大学)、B高野選手(立命館大学)

BLM1xセミファイナルC/D

この日最後のレース。スタートからギリシャが飛び出し、日本が続く展開。3位までがファイナルCに進む条件の中、3位を5秒以上引き離し1000mを通過。トップギリシャは第3クォーターに入ってもペースが落ちない。日本も必死について行くが差はじりじり開くが、2位を守りゴール。ファイナルCに進出した。



順位	選手	タイム
1	GRE	1:16
2	GBR	1:17
3	ITA	1:18
4	JPN	1:22
5	PAN	1:23



ファイナルCに進んだBLM1x新井選手(慶應義塾大学)

19:00~ 全体ミーティング

明日はBM1x櫻間選手(NTT東日本)がセミファイナルA/Bに出場するなど、多くのクルーが登場しますので、ご声援よろしくお願い致します。